

令和2年4月27日

運動部員の皆さんへ

奈良県立奈良情報商業高等学校
校長 吉田浩一

令和2年度全国高等学校総合体育大会の中止について

すでに報道されているように、4月26日(日)に全国高等学校体育連盟の臨時会議が開催され、本年8月に全国21府県で実施が予定されていた、今年度の全国高等学校総合体育大会(インターハイ)全30競技の中止が決定されました。

運動部に加入している君たちは、高校生アスリートの夢舞台であるインターハイへの出場を目指して、日々努力を重ねてきたことだと思います。先生の指導の下、部としての目標を掲げるとともに、その目標達成に向けて厳しい練習をこなしたり、また時にはキャプテンを中心としてミーティングを重ねチームとして意識の高揚を図ってきたことだと思います。全てがインターハイで最高の結果を残すための努力であったと思います。しかし、新型コロナウイルスへの感染拡大防止のために、3月からは学校が臨時休業等となり部活動を実施する機会が大幅に制限され、シーズンインしてからも練習試合はもとより公式試合も開催されないという状態が続きました。このような中、今回の決定となり、君たちにとっては努力してきたことを試す機会も無いという大変残念で無情なことになってしまいました。君たちの心情を思うと、「残念」や「悔しい」という言葉だけでは簡単に言い表すことができない、行き場のない怒りややるせなさを何処にぶつけていいのかという思いを抱えていることだと思います。君たちにとっては大変辛いことです。特に3年生にとっては、最後の大会をこのような形で終えることをすんなりと受け入れることは困難なことだと思います。

しかし、全都道府県に緊急事態宣言が発令されており、日々感染者が増加している現状、また、全国の大部分の高等学校等において臨時休業等が実施されており、教育活動についての事態収束の見込みが立たない状況、そして何よりも命を守ることに優先すべきものはないということを思うと、今回の決定は致し方ないものだとわざるを得ません。本当に残念ですが、今回の決定を飲み込んで欲しいと思います。

君たちは自らの意思でそれぞれの運動部に入部し、目標達成のためにたゆまない努力を続けてきました。特に3年生については、仲間とともに最後のインターハイで成果を残すために一意専心し、全エネルギーをかけてきたことだと思います。これらの経験を通して、教科の学習だけではなかなか得ることのできない、連帯感や達成感、協調性などを身につけるとともに、人間的にも大きな成長を遂げたことだと思います。このことは、これからの君たちの長い人生にとって何物にも代えられない貴重な経験となるだけでなく、大きな糧となることに疑いはありません。

今後、安全に部活動が実施できる状況となった時点で、各競技団体がこれからの方向性や大会の在り方等を検討していくこととなります。それまでは厳しく辛い状況が続きますが、自分はスポーツが大好きだから、この部活で高校生活を充実させたいと決めた初心を忘れず、今、各人ができることを精一杯こなしてくれることを期待します。